

『みらいへのかけはし』

2015年3月、FoE Japanは福島の子若者や女性とともにチェルノブイリ原発事故の影響を大きく受けたベラルーシを訪問しました。1986年4月26日におきたチェルノブイリ原発事故により発生した放射性物質の約7割はベラルーシに降り注ぎ、それにより国土の23%が汚染されました。ベラルーシ政府は「原発事故は収束した」としていますが、今でも甲状腺がんを含む様々な病気がベラルーシで見られています。

原発事故から約30年。原発事故の影響はどのようにあらわれているのか、人々はどのように生活しているのか、事故とどう向き合っているのか…

汚染地の子どもたちの保養施設、事故により故郷を追われミンスクで生活するおばあちゃんたち、市民による放射線研究所など、様々な場所を訪問し、人々の声を聞きました。本報告書には現地の声をたくさん詰めました。また、「避難の権利」の根拠ともなっているチェルノブイリ法や、ベラルーシの保養の制度についても紹介しています。

【内容】

- 「チェルノブイリ法」による移住政策と健康管理
- 子どもたちの保養
- 市民による放射線測定
- 事故に向き合う人々の声
- ベラルーシの暮らし



【購入方法】

希望冊数とお名前、送付先住所、お電話番号、メールアドレスを明記の上、ファックスかメールにてFoEまでご連絡ください。冊子と振込用紙(600円×申し込み冊数+送料200円)を郵送します。

【申し込み・問い合わせ先】

国際環境 NGO FoE Japan (〒173-0037 東京都板橋区小茂根 1-21-9)
 電話：03-6909-5983 FAX: 03-6909-5986  **FoE Japan**
 メール: energy@foejapan.org

編集：国際環境 NGO FoE Japan
 発行：2016年3月

価格：600円（税込）

申込書	お名前：	住所：〒		
	希望冊数： 冊	FAX またはお電話：	メールアドレス：	